

令和7年度 事業報告

1 事業の概要

大阪湾に浮かぶ夢洲を会場とした大阪・関西万博の開幕で始まり、ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックで締めくくられた令和7年度は、私たちにとっても勇気と希望、そして未来への創造性を感じさせる一年でありました。一方で、いまだ終結の見通しが立たないウクライナ情勢に加え、中東地域での混乱が続き、経済の不確実性が高まる年でもありました。

そして、高齢化はさらに進み、高齢者が社会の中核を占める時代が本格化し、過去に経験したことのない超高齢化社会へと突入し、高齢者の就業も過去最高となりました。これは、働く高齢者が当たり前となり、労働市場の重要な担い手となった証であり、高齢者が人生100年時代における“より良い老い方”と“持続可能な高齢社会”を自らで切りきらくことが重要視されるようになりました。

また、社会の仕組みも時代の流れと共に変遷し、特定個人事業主として就業する会員については、令和6年11月に施行された、いわゆる「フリーランス法」に対応を求められ、令和8年度から開始する新たな包括契約への移行に向けた準備を開始しました。

高齢化が進む社会の中で、山武市で高齢者の皆さんが安心して生活を続けられるよう関係機関と連携を図りながら、私たちの「えるワークさんむ」は、「おこづかい・健康・つながり」の3つの「える」を中心に事業展開を行いました。

センター事業の転換期となる新規事業が相次いで開始され、会員の就業先の拡大やセンターの周知向上に大きく寄与した年となりました。その1つとして、初めて指定管理者制度を受託した「駅前自転車等駐車場管理」事業がスタートし、新たな体制のもと、成東駅・日向駅・松尾駅の管理運営を行い、利用者が安心して利用できる環境づくりの取り組みを行いました。

さらに、6月からは市とは初めての派遣就業となる「幼稚園バスの添乗業務」を開始しました。この事業は、女性会員の新たな就業先としての役割を果たす

とともに、新規入会者の獲得にもつながり、大きな成果をもたらしました。

また、全国シルバー人材センター事業協会（以下、「全シ協」という。）の「会員就業支援事業」において、全国で受託した 28 センターのの一つとして、夏場の猛暑対策に関する各種機材の試験的運用を実施しました。具体的には、自走式草刈機の導入による作業負担の軽減、頸部を冷却し体温上昇を抑える効果が期待されるネッククーラーの使用、さらに作業負荷を軽減するとされるアシストスーツの試用などを行いました。

その結果、一定の効果が期待できる機材がある一方で、現状のセンターの就業内容では活用が難しいものもあり、評価は分かれることとなりました。しかしながら、これらの取り組みを通じて、今後のシルバー人材の就業に向けた新たな可能性を体験する貴重な機会とすることができました。

健康面については、4年目となる「安心安全就労サーベイ」を実施し、会員ボランティアスタッフの協力のもと、関係機関と連携をしながら4日間の測定を終了することができました。

高齢者の健康不安は体力面だけでなく、認知症についても深刻であり、高齢者の3人に1人が認知症またはその予備軍になるといわれています。こうした状況を踏まえ、全シ協が主催する「キャラバン・メイト養成講座」を職員が受講し、センターとして会員向けに認知症サポーター養成講座を開催できる体制を整備しました。

このように、私たちえるワークさんむは、多様な会員のニーズに応えるため就業先の拡大に積極的に取り組み、「おこづかいを得る喜び」を実感できる事業を推進するとともに、就業を通じて健康を維持できる体制づくりを進めてきました。また、「地域社会に支えられる高齢者」ではなく、「地域に必要とされ、貢献する高齢者」としての役割を果たすことを実践した実りある1年となりました。

そこで、私たちえるワークさんむのこの1年間の活動を報告します。

会 員 数 正 会 員 4 8 6 人

(男性 3 0 5 人・女性 1 8 1 人)

特別会員 1 人

賛助会員 2 団 体 ・ 5 人

事 業 実 績

	受託事業	派遣事業
受注件数	2, 8 7 0 件	3 7 件
契約金額	2 億 2 千 8 百 万 円	3 千 百 万 円
就業延人日	3 7, 8 0 4 人 日	5, 1 7 9 人 日
就業実人員	4 4 8 人	6 4 人
就 業 率	9 2. 2 %	
事 故 報 告	傷害事故 4 件	0 件
	物損事故 2 件	0 件

2 事業の報告

(1) おこづかいをえる

① 就業条件の見直しと最適化

高齢化が進む山武市にとって労働人口の不足を補うべく就業の拡大を図りました。

新規の就業については、厚労省の適正就業ガイドラインに基づき契約を行い、女性や高齢者にとって就業しやすい環境づくりを行いました。

酷暑となった夏場の作業は、就業時間を1日4時間と定めることや、原則1人就業を禁止し会員の安全確保に努めました。

② 安定した受注体制の整備

会員の高齢化や健康不安に対応するため、引き続き会員による知人等への口コミ勧誘活動を実践してもらうよう呼びかけを行いました。併せて、市広報紙での会員募集記事の掲載や、公共施設等でのポスター掲示やチラシの配布を行い、市民への呼びかけを行いました。

女性会員の拡大については、人口が密集する団地等を狙い会員募集チラシを配布し、新規入会者の獲得に努めました。

③ 就業開拓員や役職員による就業先への訪問

定期的に就業先を訪問し、引き続きの就業や新規の就業について獲得できるよう実施しました。

(2) 健康をえる

高齢者の健康維持には、運動・社会参加・生活習慣の改善が重要で、本人の健康意識が長寿と生活の質向上に寄与すると言われていることから、就業を通して健康をえる私たちの取組の実践を勧めました。

引き続き、市の転倒骨折予防プロジェクトに参画し、関係機関と連携を取りながら会員にとって必要な情報の伝達や、生活機能を知る測定会（安心安全就労サーベイ）の開催等、安心安全就労アドバイザーの陣内裕成先生（日本医科大学衛生学公衆衛生学准教授）の協力を得て積極的に実施しました。

①安心安全就労サーベイの開催

4年目となる安心安全就労サーベイ（生活に必要な運動機能を自分自身を知るため12項目について測定を実施）は、新規入会者を中心に声掛けを行い4日間にわたり開催しました。

測定計測に必要なスタッフは、一部の専門職が実施する項目を除き、会員のボランティア協力により実施しました。双方が会員であるという特性から、会場は和んだ雰囲気で開催され時には笑い声も聞こえ、参加者の感想は「参加して良かった」という声が多く聞かれました。

全国的に類を見ないこの測定会に、全シ協前会長で現在の相談役である金子順一氏が来訪され実際に参加をされ、このような事業を会員が中心となり行っていることに驚かれ、また、自治体とセンターの連携力にも驚かされていました。

【安心安全就労サーベイ】

会 場：松尾 IT 保健福祉センター
多目的室
月 日：9月16日～19日
その他：会員協カスタッフ
35人

参加者内訳	参加者数
初回参加者	43人
2回目参加者	17人
3回目以上参加者	39人
関係者（会員以外）	10人
合 計	109人

② 安心安全就労に向けた検討と安全委員会の開催

事故ゼロがいまだ達成できない状況を受け、安全委員会では就業の実態を把握することが重要であると考え、3地区に分かれてパトロールを実施しました。パトロールでは会員の就業状況から一定の安全性を確認

できたものの、「なぜ事故がなくなるのか」という根本的な課題が改めて浮き彫りとなりました。

また、夏季の暑さ対策として全シ協の会員就業支援事業を活用し、松尾地区では自走式草刈機を導入しました。これにより作業時間が短縮され、会員の負担軽減につながりました。さらに、屋外作業では頸部を冷やす電動ネッククーラーを使用し、バッテリー交換や装着時の違和感があったものの、一定の効果を得ることができました。

会員の健康被害を防ぐため、厚生労働省の指針に基づき、チェーンソーの使用時間を1日2時間と決めました。また、草刈り作業における飛び石対策として、飛び石が発生しにくい草刈刃の使用を推奨するとともに、防護ネットの活用を呼びかけました。

安全委員会では、全シ協の安全就業担当者会議の動画を視聴し、全国の好事例を確認しながら、自分たちのセンターで取り組める改善策について検討しました。

こうした安全対策を進めてきましたが、残念ながら事故が発生してしまい、今後の課題として真摯に受け止める結果となりました。

【事故報告】

請負就業	傷害事故	物損事故
事故件数	4件	2件

派遣就業	傷害事故	物損事故
事故件数	0件	0件

(3) つながりをえる

組織間のつながりを強めるだけでなく、会員同士、そして会員と市民とのつながりを大切にする多様な事業を展開しました。会員が社会参加の機会を得ることで充足感を持ち、自分たちの暮らす山武市で朗らかに生活できるよう、就業機会の提供にとどまらず、さまざまな場面で活動を行いました。

・わたしの健康プラスへの協力

65歳以上の市民を対象とした測定会において、引き続き運営協力を行いました。元気高齢者には入会を促すとともに、多くの就業機会を提供しているシルバー事業について紹介し、理解促進に努めました。

・いきいきわくわく教室

社会福祉協議会ゴールドクラブ主催の事業において、当センターは運営協力を行い、併せてシルバー事業の紹介も実施しました。

・おしごとリブラボ

成東図書館主催の夏休み事業として「貝ストラップ教室」が開催され、女性会員が先生となり協力をしました。参加した子どもたちは、貝を使ったストラップ作りに挑戦し、楽しいひとときを過ごしました。

・シルボンヌ全国大会 2025 IN 宮城

局長は実行委員として「シルボンヌ IN 北海道」および「シルボンヌ IN 宮城」に参加し、全シ協をはじめとする関係団体との連携強化に努めました。

宮城大会では、すみれサークルが物品販売で参加し、手作りの小物を来場者に販売するなど、活動のPRにもつながる機会となりました。

・会員同士のつながり強化

就業機会の提供だけでなく、さまざまなイベントを実施することで、会員同士のつながりを深める取り組みを行いました。これらの事業を通じて会員間の交流が活発になっただけでなく、「こうした活動に参加して

みたい」という声も生まれ、新規入会者の獲得にもつながりました。

【会員状況報告】

	成東	山武	松尾	蓮沼	合計
入会	33	30	12	3	78
退会	28	17	12	5	62
会員数	192	178	82	34	486

【入会説明会参加者報告】 77人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
参加者	10人	5人	8人	10人	4人	4人
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者	5人	9人	4人	3人	9人	6人

【家族会員】 31人

・すみれの輪

女性部会が企画した事業には男性会員も参加し、男女問わず多くの会員と一緒に楽しむ場となりました。

料理教室では、男性講師の指導のもと、山武市特産のねぎをふんだんに使った「ネギカレー」を、カレールウから手作りしました。参加者全員で調理し出来上がったカレーを美味しくいただきました。

日帰り旅行は、これまでとは趣向を変え、遠足のような雰囲気を実施しました。佐倉市の歴史民俗博物館では知識を深め、千葉市動物公園では新緑の中を散策しながら動物たちを見て回り、1日を通して充実した時間を過ごしました。

	月 日	内 容	参加者
第1回	5月23日	日帰りバス親睦旅行	17人
第2回	9月25日	押し花壁掛け作り、輪投げ	16人
第3回	1月20日	料理編「ネギカレー」	23人

・すみれサークル・いきいきクラブ

	すみれサークル	いきいきクラブ
就業実人員	18人	29人
就業人日	300人日	91人日
収入実績	363,660円	233,500円
活動内容	記念品バッグ、フクロウストラップ、バンダナ帽子等の作成と販売	サツマイモの栽培及び収穫と販売

・ボランティア活動の実施

4地区で地域活動を実施し、地域に根差した団体であることを住民の皆さんに知っていただくことを目的として、ボランティア活動を継続して取り組みました。成東地区では新しくなったさんむ医療センターで活動を行い、蓮沼地区では交流センターにパンジーの花植えを実施しました。山武地区では、広報紙封入作業場所の清掃や植木や草刈りを行い、作業後には屋外にブルーシートを広げ、青空のもとで参加者がお弁当を食べながら親睦を深めました。松尾地区では、数年ぶりとなる健康福祉まっりの開催に向け、会場の松尾公民館周辺の屋外作業を行いました。

一方で、ボランティア作業に協力する会員数は減少傾向にあり、地域社会へのPRを目的とした重要な事業であることから、今後はより一層の会員への呼びかけと協力体制の強化が必要であると認められました。

	山武地区	成東地区	松尾地区	蓮沼地区
月 日	6月16日	10月12日	10月17日	10月28日
会 場	山武福祉作業所、 睦岡封入作業所	さんむ医療 センター	松尾公民館	蓮沼交流 センター
内 容	植木草刈草取 清掃	草取	草刈草取	花植え・草刈
参加者	28人	11人	8人	8人

- ・趣味の披露

就業では見えにくい会員の皆さんの趣味や特技を披露する場として各行事を開催し、ご家族やご友人にも一緒に楽しんでいただくことができました。

10月のきらきらシルバーフェアでは、広い会場を使用し、作品展示に加えて来場者が楽しめるよう「日本地図木製パズル」や「輪投げコーナー」を常設し、頭と体を使って楽しんでいただきました。また、会員講師による「折り紙教室」も好評で、芸術の秋を満喫する催しとなりました。

1月の芸能大会では、会員による歌・演奏・マジック・朗読など多彩な演目に加え、職員による出し物も披露され、会場は大いに盛り上がりました。最後の抽選コーナーでは、誰が1等を引き当てるのか会場全体が一体となって楽しむ様子が見られました。

- ・プラチナ会員の奨励（就業を伴わない会員）

34人（男性17人 女性17人）

- ・サロンうたごえ♪

脳トレでしっかり頭を使ったあとは、季節の歌や参加者が歌いたい曲をみんなで合唱し、さらにレコードプレーヤーで懐かしのレコードを鑑賞するなど、ゆったりとした時間を過ごしました。コーヒーを飲みながらのおしゃべりタイムも大変好評で、参加者同士の交流が深まるひとときとなりました。

（4）その他

①デジタル化の推進

Smile to Smile アプリの登録完了者は、スマートフォン保持者の約 **93%** に達し、前年度から上昇しました。この要因として、スマホサポートチームによる継続的な支援に加え、センターが紙での通知を廃止する方向で事業を進めたことで、アプリ利用の必要性をより理解してもらえたことが考えられました。

【スマホ教室参加者数】 合計 36人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
参加	4人	5人	3人	2人	3人	0人
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加	5人	1人	4人	3人	3人	3人

②情報の伝達と発信

広報紙「シルバーさんむ」での定期的な情報発信に加え、ホームページを活用して各種事業の募集や実施報告を行い、積極的な情報発信に努めました。

また、各種事業の様子を入会説明会や事業開催時に映像として放映し、センター事業の理解促進と紹介を図りました。

さらに、11月に実施した健康教室の様子が『月刊シルバー』4月号に掲載され、全国に向けて当センターの取組を紹介する機会となりました。



11/11松尾ふれあい館にて、健康関連サロン活動として健康教室を実施しました。高齢者支援課保健師による健康講話の後、ポッチャとユニカールをチーム対抗戦で楽しみ汗を流しました。

③役職員研修

全シ協で新たに始まった認知症への取組の一つとして、職員2名が「キャラバン・メイト養成研修」に参加し、1日の必要研修を修了しました。これにより、会員向けに「認知症サポーター養成講座」を開催できる体制を整備しました。そして、理事会と職群班長会議において開催をしました。

また、会長・副会長は千シ連主催の関東ブロック役職員研修会に参加し、今後のセンター運営に必要な最新情報の収集に努めました。

11月には、東京都国立市シルバー人材センターの役職員8名が「健康

になる就労プロジェクト」に関する視察のため山武市シルバーを訪問し、意見交換を行いました。

さらに 2 月には、以前よりすみれサークルがお世話になっている東京都狛江市シルバー人材センターを、女性理事を中心とした7名で訪問しました。狛江市シルバーでの女性会員活動の取り組みや、テレビでも度々紹介されている駄菓子屋の運営などについて視察を実施しました。

③ さんむ SDGs パートナー

センター活動が SDGs の一環であることを継続的に関係者へ発信し、シルバー人材センター事業の有効性を広く伝えました。

えるワークさんむ

